



センサー水栓

取扱施工説明書

施工・使用前に必ずお読みください。

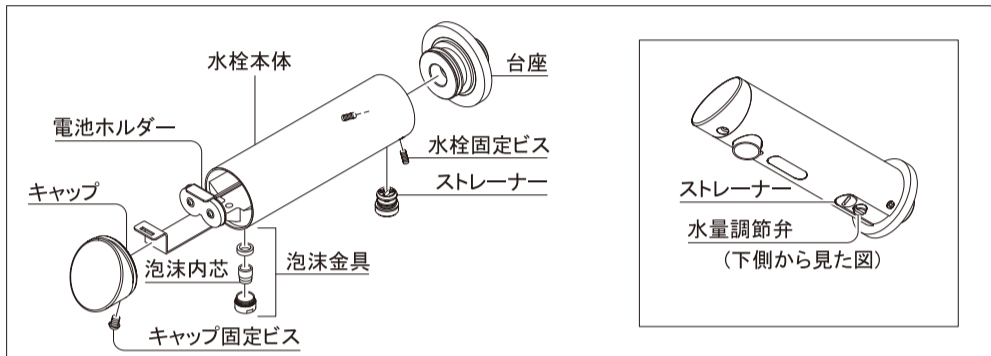
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。
この取扱施工説明書は、別紙「安全上のご注意」とあわせてご使用ください。

このたびは、センサー水栓をお買い求めいただき、まことにありがとうございました。

使用条件

- 使用圧力範囲は0.05MPa(流動圧)～0.75MPa(静水圧)です。
- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.20MPa程度に減圧してください。
- 快適にご使用いただくために、0.20MPa程度の給水圧力をおすすめします。

製品同梱明細・各部のなまえ

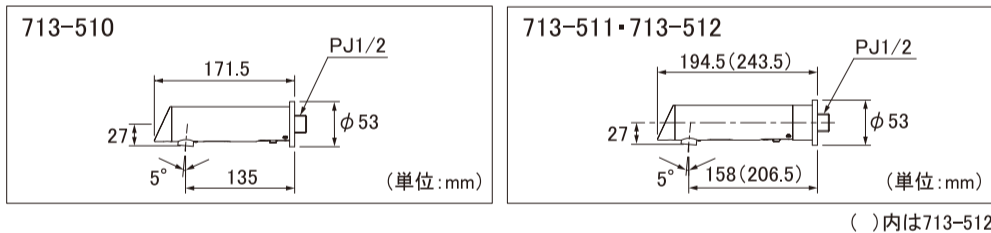


- *上記部材に加えて、●取扱施工説明書 ●取扱シール ●安全上のご注意 ●保証書 ●六角レンチ(対辺2.5ミリ) ●リチウム電池(CR-P2)を同梱しています。
- *表記イラストは代表品番です。品番によっては図と製品の形状が一部異なります。
- *製品改良のため、部品仕様などを予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

仕様・寸法図

電源	リチウム電池(CR-P2)	使用圧力	0.05MPa(流動圧)～0.75MPa(静水圧)
電池寿命	約2年(100回/1日を目安とする)*1	使用室温範囲	1～50℃
検知距離	センサー部より100～150ミリ*2	使用水温範囲	1～50℃ *凍結不可
使用流体	上水道水	用途	パブリックおよび一般住宅洗面用

- *1: 使用条件、環境により異なります
- *2: 大人の手のひらに対する距離



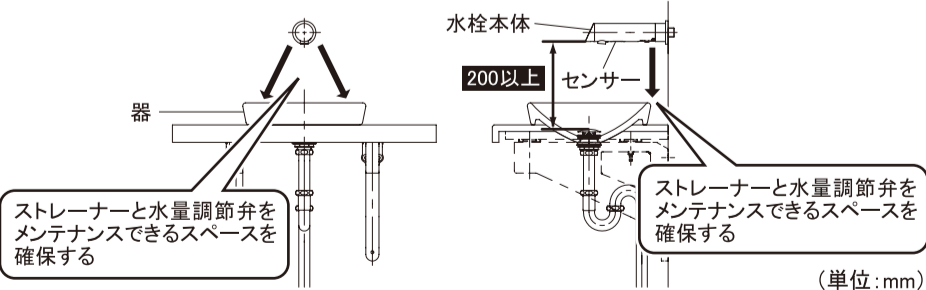
施工に必要な工具

- プラスドライバー ●マイナスドライバー ●六角レンチ(対辺10ミリ)

取付けの前に

施取付位置を決定する際の注意事項

ステンレス製の器と組み合わせると、誤作動を起こす恐れがあります。
ステンレス製以外の器と組み合わせる場合でも、水栓本体下側のセンサーから器の底面(化粧キャップなどがある場合はその天面)まで200ミリ以上を確保してください。



注意

- センサーを傷つけないように十分にご注意ください。
- 温風乾燥機等赤外線を用いた機器とあわせて使用する場合は、それらの機器の赤外線ビームが本品のセンサーや器内に入らないようにしてください。
- 次のような場合、動作に支障をきたす原因となることがあります。
*放送局・無線局等の強い電磁波を発する施設(機器等)が近くにある場合。
*インバーターや赤外線・電波を用いた機器、医療機器(各種検査装置等)が近くにある場合。
- センサーの検知領域内に障害物が入らないようにしてください。
- 本品は屋内用です。屋外では使用しないでください。
- 梱包前に通水検査をしているため、製品内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

取付方法

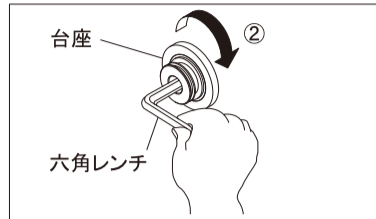
*数秒間水を流し、配管内のゴミなどを洗い流してから、元栓を開けて取付作業を行ってください。

1. 台座を取付けます。



- ①片手で台座をしっかり握り、もう片方の手で台座のネジ部にシールテープをあてます。そのまま軽く引張りながら時計回りに7～8回、ネジ部全体に均等になるように巻付けます。巻終えたら、シールテープを引きちぎります。

*713-510の場合は台座リングをまわして、壁面にあたる部分の面を台座本体とあわせておきます。

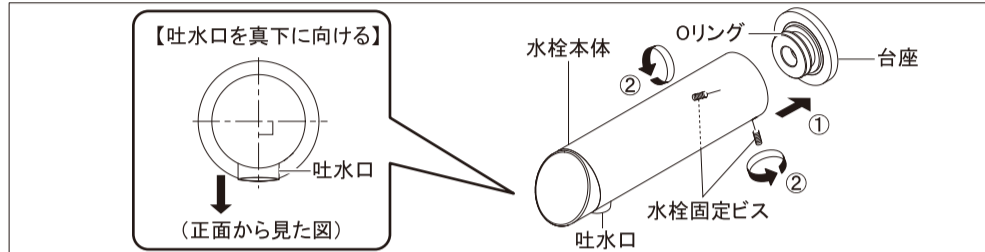


- ②台座を壁面内のネジ部にねじ込み、「六角レンチ」(対辺10ミリ)で壁面にあたるまで締付けます。



台座を取付ける際、逆方向にまわしてゆるめると漏水の原因になります。
ゆるめてしまった場合は、もう一度手順①からやり直してください。

2. 水栓本体を取付けます。

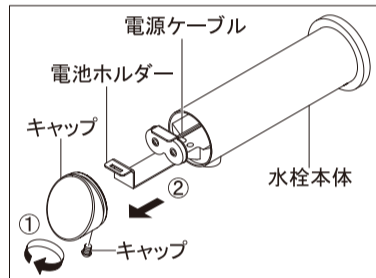


- ①台座のリングにゴミなどが付いていないことを確認のうえ、イラストのように吐水口を真下に向けて水栓本体を台座にあたるまで差込みます。
- ②同梱の「六角レンチ(対辺2.5ミリ)」で水栓固定ビスを締付けて固定します。



水栓本体は重いので、落下等十分注意して作業を行ってください。

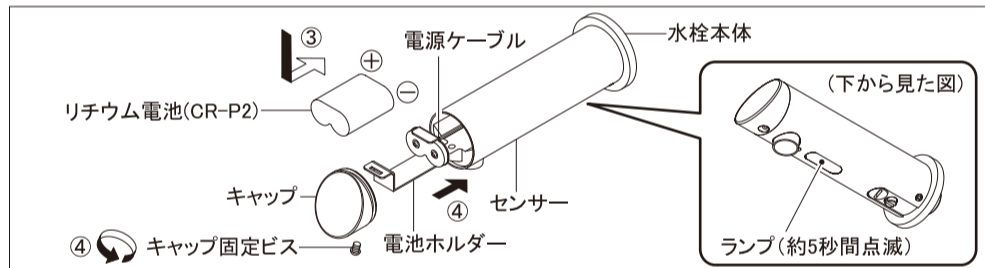
3. 電池を取付けます。



- ①キャップ下側のキャップ固定ビスをゆるめてキャップを水栓本体から取外します。
- ②電池ホルダーを水栓本体から抜取ります。



電池ホルダーを水栓本体から抜取る際は電池ホルダーを強く引張らないでください。
電源ケーブルが断線する恐れがあります。



- ③電池を電池ホルダーに取付けます。
電池を取付けると、センサーのランプが約5秒間点滅した後「カチッ」という作動音が1回あります。センサーのランプが点滅せず作動音がない場合は、電池の極性(⊕⊖の向き)をご確認のうえ取付け直してください。

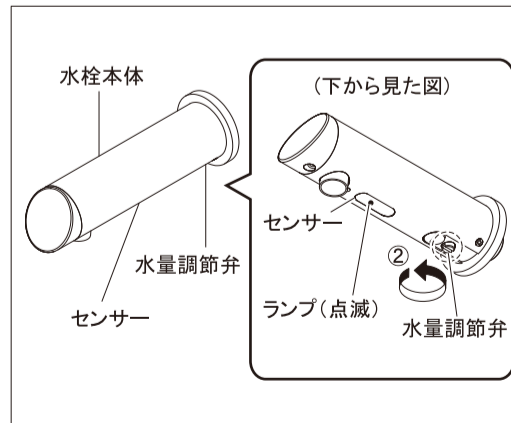
*電池を取付けるとセンサーが初期設定を行いますので、センサーに手や体を近づけたり、陶器(手洗器内)に障害物を置いたりしないでください。

- ④①～②の逆の手順でキャップを元に戻します。



- 電池を取付ける際は、極性(⊕⊖の向き)を間違えないように取付けてください。電池の破損や、液もれにより、ケガをしたり周囲を汚損する原因となる場合があります。
- 新しい電池と古い電池や、異なる種類の電池を混ぜて使用しないでください。電池の破損や、液もれにより、ケガをしたり周囲を汚損する原因となる場合があります。
- 電池を取付ける際は、水栓本体内に水が入らないようにご注意ください。
- 電池ホルダーを元に戻す際は、電源ケーブルをかみ込まないようにご注意ください。
- 電池はリチウム電池(CR-P2)をご使用ください。

4. センサーと水量調節弁を確認します。



- ①センサーに手をかざしたり、器内に障害物を置いたりしていない状態で、センサーのランプが点滅(約0.5秒間隔)していないことを確認します。

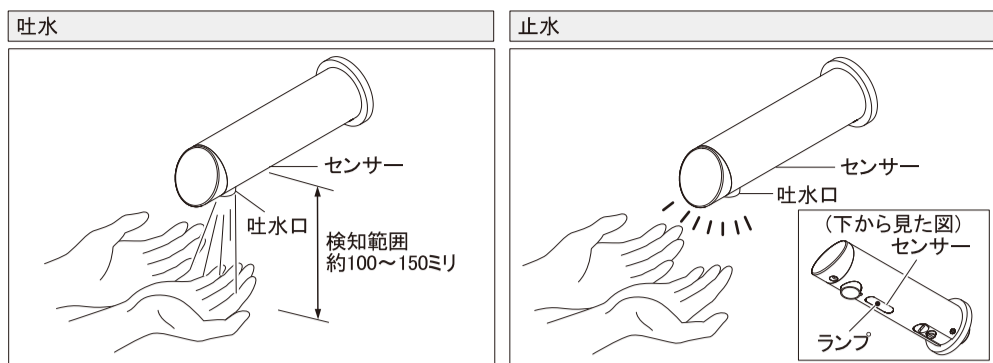
*ランプが点滅している場合は、電池を取付けた際に、センサーに手や体が近づいていたり、センサーの前に障害物があったためのエラー表示です。その場合はセンサーの前に手や障害物がないことを確認のうえ、電池を取付け直してください。

- ②元栓を開けた状態で水栓本体下側の水量調節弁が全開であることを確認します。
*全開になっていない場合は水量調節弁をまわして全開にしてください。



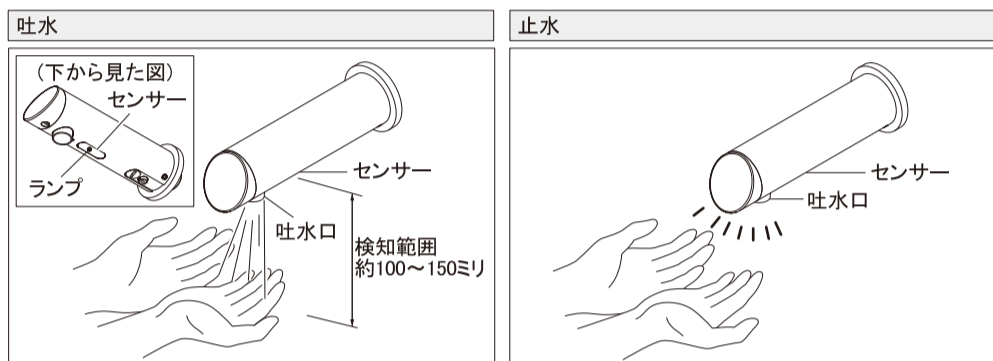
水量調節弁

施工後の確認



- 元栓を開き、各部に水もれがないかを確認します。元栓を開いた際に吐水口からの水が止まらない場合には、一度元栓を閉めてから電池を取付け直してください。吐水口に定流量弁を内蔵していますので、通常は流量の調節は不要です。水量調節弁は全開の状態でご使用ください。水もれが発見された場合は、元栓を閉めて水もれする箇所を施工し直してください。
- 吐水口に手を近づけて水を出し、各部に水もれがないかを確認します。水もれが発見された場合は、元栓を閉めて水もれする箇所を施工し直してください。水が出ない場合は、取付方法「3.電池を取付けます。」の順序に戻って、ご確認ください。取付後に初めて水を出す場合は、約10～20秒間連続して水を出して流量を安定させてください。
* 吐水口から手を離すと約1～2秒で水が止まります。
* 手を近づけた状態で、約30秒間連続して水を出すと、センサーのランプが点滅(約1秒間隔)して自動的に水が止まります。再び水を出す場合は、一度手を吐水口から離してください。

使用方法



- 吐水口に手を近づけると、センサーのランプが1回点滅して水が出ます。
吐水口から手を離すと約1～2秒で水が止まります。
* 手を近づけた状態で、約30秒間連続して水を出すと、センサーのランプが点滅(約1秒間隔)して自動的に水が止まります。再び水を出す場合は、一度手を吐水口から離してください。

お手入れのしかた

泡沫内芯のお掃除



最初お使いになっていた時より著しく水の出が悪くなった場合は、泡沫内芯を外して、ゴミなどの異物をブラシなどで水洗いして取除いてください。

器具のお手入れ

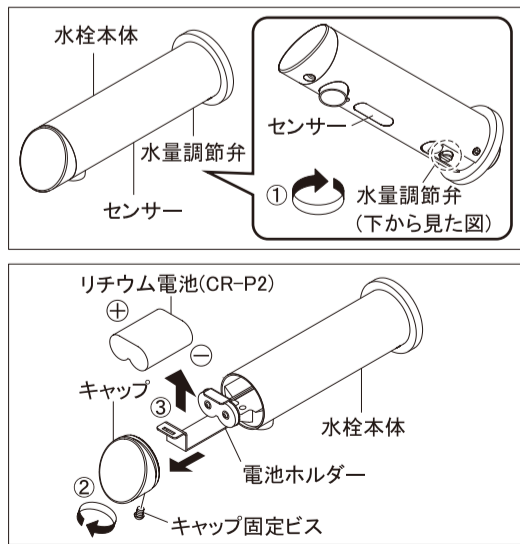
いつまでも美しくご使用いただくために



- 水栓器具の金属部
ふだんは乾いたやわらかい布でみがき、ときどきカーワックスなどをしみこませた布でみがいてください。
- 水栓器具の樹脂部・塗装面
乾いた布を使ってお手入れしてください。汚れがひどい時は、うすめた食器用中性洗剤を含ませた布で拭き、乾いた布で水気を拭き取ってください。

注意 金属たわし、クレンザー・みがき粉等粒子の粗い洗剤、酸性・アルカリ性・塩素系洗剤、ベンジン、油等は、金属部・樹脂部・塗装面を傷めますので使用しないでください。また、塗装面や印字部等にメラミンスポンジを使用しないでください。

ストレーナーのお手入れ

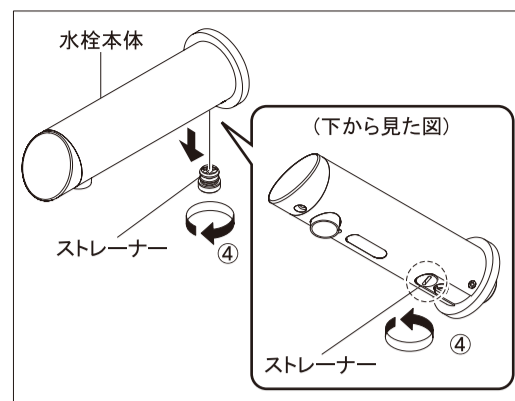


- 水栓本体下側の水量調節弁を閉めて水を止めます。
* 水量調節弁を閉める際にセンサーが手などを検知して水が出る場合がありますので、ご注意ください。

- キャップ下側のキャップ固定ビスをゆるめてキャップを水栓本体から取外します。
- 電池ホルダーを水栓本体から抜取り、電池を電池ホルダーから取外します。

注意 電池ホルダーを水栓本体から抜取る際は電池ホルダーを強く引張らないでください。電源ケーブルが断線する恐れがあります。

お手入れのしかた(つづき)



- 水栓本体下側のストレーナーをゆるめて取出し、網目に詰まったゴミなどを取除きます。
- ②～④の逆の手順で元に戻します。
- ①で閉めた水栓本体下側の水量調節弁を開き、各部の水もれおよび動作をご確認ください。水もれが発見された場合は、水量調節弁を閉めて水もれする箇所を施工し直してください。水量調節弁を開いた際に吐水口からの水が止まらない場合には、一度、水量調節弁を閉めてから電池を取付け直してください。吐水口に定流量弁を内蔵していますので、通常は流量の調節は不要です。水量調節弁は全開の状態でご使用ください。約10～20秒間連続して水を出して流量を安定させてください。

センサーのランプが点滅したときは(エラー表示)

* ランプが点滅すると手をかざしても水が出なくなります。

ランプ	点滅パターン	エラー内容と対処のしかた
	約0.5秒間隔で点滅 約0.5秒	電池を取付けた際に、センサーに手や体が近づいていた、センサーの前に障害物があったためのエラー表示です。センサーの前に手や障害物などがないことをご確認のうえ、電池を取付け直してください。
	約1秒間隔で点滅 約1秒	センサーの検知異常を示すエラー表示です。センサーの表面の水滴や汚れ、センサーの前の障害物を取除いてください。
	約2秒間隔で点滅 約2秒	電池が消耗していることを示すエラー表示です。新しい乾電池に交換してください。 ●電池の交換方法 (下から見た図)

- 水栓本体下側の水量調節弁を閉めて水を止めます。
* 水量調節弁を閉める際にセンサーが手などを検知して水が出る場合がありますので、ご注意ください。
- 取付方法「3.電池を取付けます。」および「4.センサーと水量調節弁を確認します。」の①の手順に従って電池を交換してください。
- 水量調節弁を開きます。
* 水量調節弁は全開の状態でご使用ください。

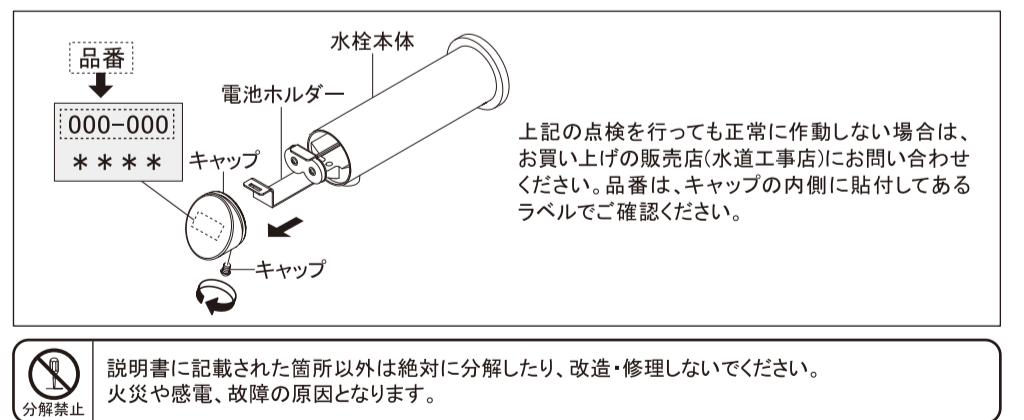
こんな時には… 簡単な点検と対処

機能が正常に働かない時は、次の要領で点検を行ってください。

現象	原因	対処のしかた
吐水量が少ない	●水量調節弁または元栓が閉まっている	●水量調節弁または元栓を開く
	●ストレーナーの目詰まり	●ストレーナーを掃除する
	●泡沫内芯の目詰まり	●泡沫内芯を掃除する
	●水がきていない	●元栓を開く
全く吐水しない ¹	●水量調節弁が閉まっている	●水量調節弁を全開にする
	●ストレーナーの目詰まり	●ストレーナーを掃除する
	●電池が正しく取付けられていない	●電池の⊕⊖を正しく取付ける
	●電池が消耗している	●新しい電池に交換する
	●センサー表面が汚れている	●センサー表面を掃除する
	●センサーの前に障害物がある	●障害物を取除く
止水不良	●センサー表面が汚れている	●センサー表面を掃除する
	●センサーの前に障害物がある	●障害物を取除く
	●インバーターや赤外線を用いた機器が近くにある	●該当する機器を遠ざける
	●他の機器の赤外線ビームが本品のセンサーや器内に入っている	●該当する機器を遠ざける

- * 1: センサーのランプが点滅しているときは「お手入れのしかた」の「センサーのランプが点滅したときは(エラー表示)」をご参照ください。
* 2: 吐水口から手を離して約30秒間で水が止まる場合は、センサー表面の汚れやセンサーの前にある障害物の有無をご確認ください。

修理を依頼されるときは



上記の点検を行っても正常に作動しない場合は、お買い上げの販売店(水道工事店)にお問い合わせください。品番は、キャップの内側に貼付してあるラベルでご確認ください。

分解禁止 説明書に記載された箇所以外は絶対に分解したり、改造・修理しないでください。火災や感電、故障の原因となります。